

普及活動検討会実施報告書

石巻農業改良普及センター
実施月日：令和7年9月1日
実施場所：石巻合同庁舎401会議室

1 検討内容

No	検 討 項 目
1	プロジェクト課題の取り組み状況について
2	小ねぎ産地における次世代の人材育成
3	水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産
4	トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築
4	省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上

2 検討委員の構成 (単位：人)

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	1	生 活 者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市 町 村	2	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
No. 1	3.7	- 産地の課題を部会でしっかり共有できている。また、課題解決のため話し合いや今後の計画がしっかりできている。青年部員のやる気を引き出し、出荷量が増加している点が良かった。 - 個別の課題分析及び巡回指導等により、青年部の意欲向上や自己改善に向かったことは評価できる。高齢化等による出荷量低下の課題も見えてきたことから、巡回指導は今後も継続いただき、課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等をお願いしたい。 - 若手の後継者に寄り添って伴走する支援は、担い手確保の面で大変有意義な取り組みだったと思われる。今後は、親元就農以外の新規就農者を対象に、空きハウス斡旋等の設備面の支援や、のれん分けなどの技術的な支援を行っていただきたいと思う（親族内承継だけでは、いずれ限界が来ることは避けられないから）。 <共同選別場導入について> - 計画策定を進めることとなった点は評価できる。部会員の方々に選別場利用の有利性等を理解していただき、多くの部会員が利用希望となるような計画となることを望む。 - 生産者にとって有効な取り組みとなることは間違いないため、単	- 塩類集積など、部会員が個別に抱える課題や、事業承継など年齢階層ごとに共通する課題について、解決に向けた部会の主体的な取組を支援してまいります。 - 就農の形態に関わらず、令和の若者を担い手として繋ぎとめるためには、丁寧で寄り添った支援体制が必須であり、部会員個別ではなく、部会として担い手を確保・育成できる機能を強化することを支援してまいります。 - 共同選別場は、部会が生産するスリムねぎのうち、一定割合以上を処理しなければ事業が成立しないと考えておりますので、多くの部会員が共同選別場を利用できるような事業収支計画を作成する方針です。また、

		年度の採算性や投資の回収まで見据えた収支シミュレーション等を慎重に行い、いつまでに何をどこまで検討するか、細かい作業スケジュールを引いて取り組んでいただきたい。 ・担い手不足の課題解決には、共同選別場の設置を進めていくことだと感じているが、スピード感を持って取り組んでいくためにもリーダーシップを発揮するメンバーがいないと進まないのではないかと思った。あらゆる補助金を探して、リスクを恐れずに若手が桃生の小ねぎを守って承継するチャレンジをしてほしいと願っている。商品のクオリティは素晴らしいので自信を持ってほしい。	御指摘のとおり、事業収支計画は慎重に作成いたします。 ・共同選別場の導入は、あくまで部会が主体的に検討すべき事業ですので、JA いしのまきとも密に連携しながら、その取組を支援してまいります。
No. 2	3. 6	・水田利用のばれいしょ、さつまいもは、高収益作物として石巻地域で期待されている作物。農地利用調整上、排水対策等の安定生産に向けての新たな課題等も見えてきたことから、引き続き課題解決に向け、きめ細かな湿害対策等の技術向上支援、経営改善支援等、定着に向けた支援をお願いしたい。 ・JA としては、ばれいしょの作付を 100ha 目標にしているので、引き続き連携して進めていきたい。 ・現状で作付面積がピーク時より減少している点が気になり。今後の水稻の作付けによっては面積拡大は厳しいかと思われる。排水性など圃場条件の適否について、数値化された指標が整備されていれば、新たな取り組みを促進することができるのではないだろうか。 ・基本的に他の作物より労働力がかからないと思うが、補助金まで含めた米や大豆等との総合的な採算性の比較が必要と思われる。カルビーポテトの契約農家は、県内も増加傾向にあるようだが、実際の経常利益がどのくらい出ているのかが気になる。そこも含めて中長期計画を含めて検討してほしい（生産者大会の高収量での受賞は素晴らしい）。 ・さつまいもの生産者は、小規模農家を含めてもっと存在すると思う。調査しながらネットワーク体制で「石巻のさつまいも」として、しっかりブランディングしていくのが良いと思う。 ・ポテト通信は情報共有のためのツールとして有意義な取り組み。引き続き情報発信をお願いしたい。	・加工用ばれいしょ、さつまいもの生産が安定・拡大するようほ場の選定や排水対策、施肥管理、病虫害防除など生産者を支援してまいります。 ・石巻地域での目標とする 100ha を達成できるよう関係機関一体となり、農地整備事業地区担い手を中心に、新規栽培者の掘り起こしを行い、県が作成した「水田を活用した露地園芸品目導入の手引き（第5版）」を活用しながら経営指標を示して推進してまいります。 ・排水性などの、ほ場条件の適否について数値化された指標については、試験研究機関を含め、今後の課題として検討いたします。 ・石巻地域のさつまいもは、小規模生産で直売や干芋、焼芋原料などに使用されており、課題対象の法人のみが JA を通じて、他県の加工業者との取引がある状況です。この加工業者が求める品質を確保できるよう支援してまいります。 ・ポテト通信は、今年5月、9月、1月の3回発行し、有益な情報提供に努めます。

No. 3	3. 6	- 管内はトマトの一大産地なので、黄化葉巻病は大きな問題となっており、課題解決に大きな期待をもっている。効果的な防除手段等の課題等が見えてきたことから、農家の実態調査をしながら解決策を検討していく、他県での取り組み状況等の情報を収集して好事例を参考にしていくなど、あらゆる情報収集をしていくことが必要に感じた。ピンチはチャンスではないが、これを機会に石巻のトマト農家の価値をもっと高めるチャンスもあるかと思った。引き続き課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等をお願いしたい。 - 発生により収量が変わってくるので、今後も早期発見が課題かと思われる。他産地の事例や対策なども取り入れ、早期に低コストで取り組める防除体系を確立していただき、生産現場と共有してもらいたい。 - 実証的・定量的なフィールドワークに取り組んでおられるのは評価に値する。抵抗品種以外の家庭菜園の扱いをどうするかなど、社会的なアプローチも必要で、非常に難解なソリューションになると思われる。そうした面から、大学等の学術機関との共同研究も有効ではないか。ただ、こうした複雑な背景がある中であっても、農家が対策を選択する際には、できるだけシンプルな選択肢を用意していただけることを期待する。	- JA いしのまき管内の黄化葉巻病の発生や被害に関する実態調査についてはこれまで行われていないので、本課題の期間中での実施を検討いたします。 - 黄化葉巻病及びタバココナジラミ対策の他県や国の取組状況については普及センターとして定期的に情報収集し、新たな情報を入手した際はトマト生産者、JA と意見交換して、技術支援の一環としてまいります。本課題では、技術支援による収量の向上や、費用対効果の高い防除対策の導入により、トマト生産者の経営改善を支援してまいります。 - タバココナジラミの早期発見・早期防除に向けた発生状況調査と、調査結果のトマト生産者への情報共有を継続します。また、他産地で導入事例のある対策には防除効果が高いが資材価格も高いという傾向があるため、費用対効果を数値化してトマト生産者に紹介するように努めます。低コストな防除対策がないかについては引き続き情報収集いたします。 - 家庭菜園愛好者への黄化葉巻病の啓発活動は委員からも農協担当者からもご意見いただいているため、どのようなアプローチが可能か JA や各市役所と協議し検討いたします。また、学術機関との共同研究の可能性についても検討いたします。トマト生産者に対しては本課題での情報共有や本課題のまとめとして作成する対策マニュアルにおいて、タバココナジラミの低減に有効な対策の選択肢をわかりやすく示すようにいたします。
No. 4	3. 3	良質な種子大豆の生産には人件費がかなりかかってくる。また、近年の高温障害等により品質・収量ともに厳しい状況。大豆種子生産を継続してもらうためには、種子の販売価格はもとより、機械選別（色選）導入必要と思われる。病虫害防除の体制強化や作業軽減体系の確立、先進地の省力化技術の導入、選別機と手作業とのハイブリッドで効率を高めていく手法の模索など、収益が向上するよう引き続き課題解決に向けての技術支援、経営改善支援等をお願いしたい。	- 異常気象下でも安定した収量・品質が確保できるよう基本技術の励行に加え、スマート農業をはじめとする新しい技術を積極的に紹介してまいります。 - 色彩選別機の有効な活用方法について、採種農家と相談しながら、検討を進めます。

		・アグリテック活用において、自動操舵が省力化のみならず、精神的な負担の軽減につながる点は新たな知見となった。また、栽培管理チェックシートは大変使いやすい様式になっていると思う。どうしても人の目による手選別の工程が不可欠であれば、スポットワーク等を活用して、労務費を極力下げる工夫が必要。このほか、雇用ではなく、農福連携や高齢者への業務委託も検討の余地がありそうだ。	・アグリテックの活用については作業の効率化のみではなく、疲労度の軽減の面での効果も PR してまいります。手選別作業の労働力確保については、地元からの臨時雇用が主となっている状況ですが、必要であれば新たな雇用形態の導入や業務委託等への誘導についても、意向の確認や事例を紹介してまいります。
その他		・普及員の皆様のより一層の技術普及に期待する。 ・目まぐるしく変わる稲作への政府の対応が私たち農業者に直に感じられる年は今までなかったように感じている。長期的な目線で示していただければ作付けも対応できるかと。 ・異常気象（特に高温障害）については、作物全体の喫緊の課題となっているので、関係機関で連携をとって取り組んでいきたい。	・農業者、関係機関の皆様と連携しながら、今後も効率的な普及活動を展開してまいります。 ・国の施策動向を注視するとともに、地域の関係者の皆様と連携しながら、持続可能な水田農業への取組を支援してまいります。 ・県内外の有用な技術情報を迅速に現場に繋ぎ、普及できるよう努力いたします。